

発明の名称:創傷治癒促進剤

利用・用途・応用分野

無料開放特許

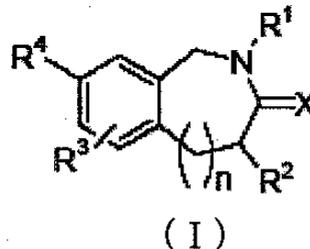
創傷治癒促進のための治療用薬剤。(軟膏剤、ゼリー剤、クリーム剤、エアゾール剤、スプレー剤、パップ剤、点眼剤等の外用剤や経口剤)

目的・課題

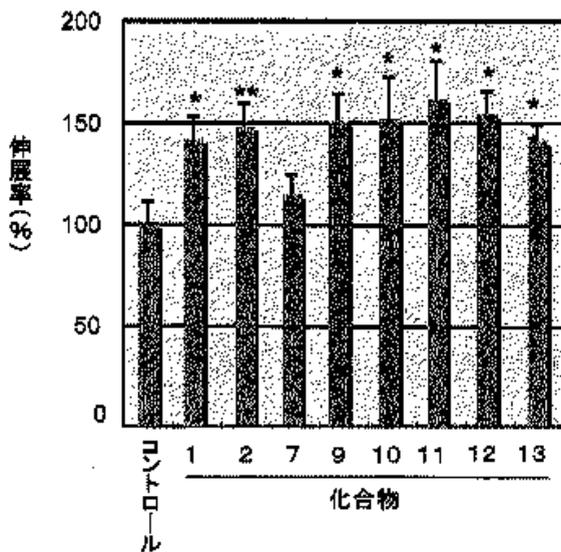
解決ポイント

従来の創傷治癒促進剤は、治癒効果、安定性や実用化の面から十分に満足し得るものではないと考えられる。細胞遊走による生体の再生能を促進させることにより、創傷に対して、さらに有用な創傷治癒促進剤を提供する。

2-ベンズアゼピン誘導体および2-イソキノリン誘導体が、皮膚や角膜・結膜などの上皮細胞の損傷に対し創傷治癒促進効果を有することを見出した。



【ウサギ角膜上皮伸展に対する作用の図】



図中の伸展率は、コントロール群の伸展長を基準(100%)として算出した。化合物1、2、9、10、11、12、13を含む培養液で培養すると、角膜上皮の著しい伸展促進が認められた。

研究概要・アピールポイント

細胞遊走による生体の再生能を促進する創傷治癒促進剤の治癒メカニズムは、創傷が起きると壊れた血小板から増殖因子や遊走因子が放出され、それらの因子に誘引されて好中球やマクロファージが創傷部に遊走し、表皮細胞の遊走、分裂が始まり表皮層が再生されていく。次いで線維芽細胞の遊走、分裂が起こりコラーゲンなどの線維が産生され真皮層が修復されることにより創傷が治癒する。創傷に対して、さらに有用な創傷治癒促進剤となる。

◆ お問い合わせ先 ◆

有限会社山口ティール・エル・オー TEL: 0836-22-9768 E-mail:tlojim@yamaguchi-u.ac.jp